

昭和大学薬学部 第30回薬-学連携プログラム

「地域医療に積極的に参画する学生を育てるために」～実習スケジュールの作り方・進め方のポイント～

日時：2015年4月16日木曜日 19:00～21:00

場所：昭和大学旗の台キャンパス4号館5階500号室

検討が進められている実務実習ガイドラインにおいて、実習開始前の実習スケジュール作成が必須とされています。そこで、今回、学生の積極性を引き出す効果的な実習スケジュールの組み立て方や学生の成長に合わせたスケジュールの進め方について、2名の指導薬剤師の方にご講演いただきました。薬局薬剤師をはじめ、病院薬剤師、大学教員など41名が参加しました。



クオール株式会社クオールアカデミー 長沼未加先生

「学生に薬局薬剤師としてのやりがいを感じさせるスケジュールの作り方・進め方 ～日本薬剤師会から提案されたスケジュールを基盤として～」

大手チェーン薬局の立場から、質の良い薬局実務実習の社内全店舗における実施を目的に模索されてきた実習スケジュールの作成法とその進め方、また、学生のやる気を引き出す声掛けポイントについてご講演いただきました。



株式会社ジェンダーメディカルリサーチ 宮原富士子先生

「地域の職種連携（在宅チーム）で学生を育てる、薬局実習の進め方 ～カリキュラムの内容を实地で丁寧に共有する～」

地域医療を担う多職種が連携して次世代を担う学生を育てるには、薬局や薬剤師自らが新しいことに取り組んでいくことが必要との考え方のもと、薬局および薬剤師の新たな機能・職能を模索し実践されている例をお話し頂きました。



2名の先生方のご講演後、「学生のやる気を引き出す工夫」などについて質疑応答が行われました。

最後に、昭和大学薬学部長 山元俊憲先生より、「新たな取り組みに向けて頑張っておられる薬剤師の先生方の背中をみせることが薬学生の教育につながると考えている。今後も、大学と薬局で連携して薬学教育に取り組んでいきたい」と、閉会の挨拶がありました。

